

令和2年度 「社会福祉法人 星のくま」 事業報告書

【ワークセンターあいの 就労継続支援B型事業】

目標：営業日数 305日 延利用者数 6,972人（平均 25.9人）

実績：営業日数 304日 延利用者数 6,964人（平均 22.9人）

<事業の成果>

- ・新規利用者4名（うち高等部卒業者2名）
- ・平均工賃 21,800円達成（+1,300円）
- ・農福連携、愛野町の地域企業との連携により、じゃがいもの袋入れ、皮むき作業を新規導入した
- ・実習生受入れ（島原特別支援学校より6名、虹の原特別支援学校より1名）

<今後の課題>

- ・主に下請け作業であるため、コロナ禍での緊急事態宣言により受注量が左右される
- ・屋外作業班の施設外就労以外の固定作業提供ができていない
- ・高齢利用者の段階的対応（50代6名、60代4名、70代2名）
- ・虹の原特別支援学校、希望ヶ丘特別支援学校からの実習生が少ない

【星のホームあいの 共同生活援助事業・短期入所事業（併設型）】

（GH）目標：営業日数 365日 延利用者数 3,285人（平均 9人）

実績：営業日数 365日 延利用者数 3,026人（平均 8.3人）

（短期）目標：営業日数 365日 延利用者数 180人（平均 0.5人）

実績：営業日数 365日 延利用者数 165人（平均 0.4人）

<事業の成果>

- ・共同生活援助（GH）定員9名、短期入所定1名 *GHは8月より満床
- ・短期入所（ケアステーション）との人事交流により、双方の支援が可能となり、人員を満たすことができた

<今後の課題>

- ・コロナ禍において市外の入居者は帰省できないことが増えた。今後、利用対象地域の見直しが必要
- ・重度入居者の入院に伴う支援内容・体制の変更や体調急変時の緊急対応
- ・入居希望者（待機者）の障がい特性や利用の目的など、今後どのような生活スタイルのGHが必要か

【ケアステーションあいの 生活介護事業】

目標：営業日数 307日 延利用者数 8,440人（平均 27.5人）

実績：営業日数 305日 延利用者数 8,521人（平均 27.9人）

区分5、6の割合 63.7%

<事業の成果>

- ・新規利用者2名（高等部卒業者）
- ・利用者定員を28名で実施した
- ・人員配置体制を1.7:1、送迎加については重度加算を算定し、経営の安定化を図った
- ・玄関の増築及び自動ドアの設置により、車いすの方のスムーズな移動やコロナ禍において玄関内の混雑を避けることができた
- ・医療職の連携（OT、PT(委託)、看護師）により、個別のリハビリプログラムを作成・実施するとともにフットケアなど、個別に細やかなサービスを実施することができた
- ・看護師を4名確保し、令和3年度からの重度障害者支援体制を整備に繋げた
- ・第三者評価や県の実地監査を受け、大きな指摘はなく今後に向けてのアドバイスをいただいた

<今後の課題>

- ・活動メニューを増やしたことによる活動場所の確保（隣地の取得、活用）
- ・ニーズの多様化や利用の目的、障がい程度のバラツキによる生活介護全体の体制の見直し
- ・重症心身の方へより安全な入浴支援の提供と、支援者の介護負担を軽減し労働環境の改善を目的とした入浴設備の改修が急務

【ケアステーションあいの 短期入所(単独型)】

目標：営業日数 353日 延利用者数2,260人（平均 6.4人）

実績：営業日数 353日 延利用者数2,226人（平均 6.3人）

<事業の成果>

- ・6床の短期入所をフルに活用し、利用を希望される方の要望や緊急時の支援に対応した
- ・雲仙市地域拠点整備事業の検討チームとして協力を開始した（令和3年6月指定）
- ・職員の勤務形態と必要な支援の見直しを行ない、生活介護との兼務や、休日においてはGHと連携してより手厚い支援が行えるよう利用実態に合わせた人員配置を行った
- ・第三者評価や県の実地監査を受け、大きな指摘はなく今後に向けてのアドバイスをいただいた

<今後の課題>

- ・夜間支援員の確保ができなかった（コロナ禍で積極的に求人活動ができなかった）
- ・コロナ禍の影響により、長崎市内の利用者様の受入れ調整が必要となった

【放課後等デイサービス】

*キッズステーションあいの（定員10名）

目標：営業日数 307日 延利用者数3,070人（平均 10人）

実績：営業日数 302日 延利用者数3,124人（平均 10.3人）

*アクティビティセンターあいの（定員10名）

目標：営業日数 305日 延利用者数2,580人（平均 10人）

実績：営業日数 302日 延利用者数2,846人（平均 9.4人）

